

平成28年度  
事業報告書

社会福祉法人スキーム福祉の会

# 平成28年度事業報告書

## I. 総括

平成28年度は、入所・通所部門の両部門ともに稼働率の向上及び収入増を図るべく、取得可能な加算については積極的に取り入れ、経営の安定を図って参りました。その結果、入所部門においては従来型、ユニット型特養を合計しますと、昨年度並みの収入は確保することができました。また、グリーンアンドリバーホームデイサービスセンターにつきましても、取組み内容を周知して頂けるようデイ新聞の発行等、営業活動の取組みを行ったところ、ケアマネジャーからも高評価を頂き、著しい収入増に繋がりました。一方、総社市井尻野で経営しておりました、デイサービス「のんびり笑家」につきましても、4月から地域密着型デイサービスへと変更申請をかけ、報酬増を試みましたが、しかし、近隣に同じような小規模デイサービスが多く存在し、新規のご利用者を獲得出来ませんでした。加えて平成29年度からスタートした日常生活総合支援事業の影響により今後、要支援者の利用が原則出来なくなることを総合的に勘案した結果、営業の継続は困難と判断し、残念ながら3月末をもって閉鎖致しました。

平成28年度の重点取組みである、サービスの質の向上については、「根拠に基づいた介護」の実践を図るべく、特養部門では定期的に介護力向上勉強会を開催し、各職種が根拠に基づいた介護を専門的な観点で行えるよう意識統一を図るとともにその援助内容についての協議を行い、職員全員が同じ方向で援助が行えるようサービスの質の向上に努めました。また、家族懇談会を実施し、本人及びご家族のご意見を頂くことでニーズに沿えるサービス提供が行えるよう努めました。在宅部門については、自立支援を促す観点から「待介介護」を実践し、今まで以上に利用者の生活機能の維持・向上を図れるように努めました。また、デイ新聞の発行により、施設の取組みを関係者に広く知って頂けるよう情報共有に努めました。

人材の育成及び確保については、今年度も施設外研修への派遣を積極的に行い、専門的知識・技術の習得に努めました。また、職員の育成については、新人職員の指導チェック表を作成し、指導する職員によって指導内容が異なるように努め、より詳細な指導・育成・評価が行えるようにしました。その成果もあり平成28年度の離職者数は8名で、昨年度の15名から比較しても半減致しました。また、過去10年間の平均でも年間の退職者数は16.1名であり、離職者の数は大幅に軽減されています。

経営の安定については、介護職員処遇改善加算、機能訓練加算等、取得出来る加算は積極的に算定し、経営の安定に努めて参りました。また、特養部門においては、協力病院との連絡を密にし、長期入院者の早期退所及び退院の検討、退所後の入れ替え期間の短縮を図り稼働率向上に努めました。

リスクマネジメントについては、ヒヤリハットの内容を各ユニット会議にて検証し、事故防止委員会で協議を行うこと等により重大な事故を防止することが出来ました。ただし、同様の人為的なミスが多く発生し、特にセンサーマット等の電源忘れ、服薬ミスをいかになくすかが今後の課題となっています。

法令遵守については、法令遵守に関する施設内研修を実施し、全職員にコンプライアンスの重要性を周知しました。特に今年度は育児・介護休業等の法改正が行われ、マタハラ、パタハラ等のハラスメントについては特に注意を促すべく別途、施設内研修を実施しました。

地域貢献については、なかなか計画に沿った取組みが行えないことから、今年1月から地域貢献・交流委員会を立ち上げ、29年度については地域貢献に対して具体的な取組が行えるように体制を整えたところです。

## II. 職員構成等

(平成29年3月31日現在)

事業所名	職種	員数
特別養護老人ホーム	施設長	1名
	施設長代理	1名
	生活相談員	2名(内ショートステイ1名)
	特養部長	1名
	機能訓練指導員	1名
	看護職員	5名(内パート1名)
	介護職員	47名(内パート4名)
	管理栄養士	1名
	介護支援専門員	1名
デイサービスセンター	管理者	1名(兼務 1名 生活相談員)
	生活相談員	2名(兼務 1名 管理者)
	看護職員	2名(兼務 1名 内パート1名)
	介護職員	8名(兼務 1名 内パート2名)
居宅介護支援事業所	ケアマネジャー	3名(兼務 1名 管理者 内パート1名)
ケアハウス	管理者	1名(特養施設長兼務)
	生活相談員	1名
	介護職員	2名(内パート1名)
のんびり笑家	生活相談員	2名(兼務 1名 管理者)
	看護職員	2名(兼務 1名)
	介護職員	4名(兼務 2名)
地域包括支援センター	主任介護支援専門員	1名(管理者兼務)
	看護師	1名
	社会福祉士	1名
	支援計画担当者	4名
全事業所兼務	事務員	2名(全事業所共通)

在職職員の資格取得状況(取得者数は重複含む)

資格名	取得者数	所属別	
施設長	2名	特養 2	在宅 0
看護師	7名	特養 2	在宅 5
准看護師	5名	特養 3	在宅 2

介護福祉士	59名	特養 43	在宅 16
社会福祉士	10名	特養 2	在宅 8
理学療法士	1名	特養 1	
作業療法士	1名		在宅 1
精神保健福祉士	2名		在宅 2
介護支援専門員	17名	特養 4	在宅 13
主任介護支援専門員	3名		在宅 3
社会福祉主事	20名	特養 13	在宅 7
管理栄養士	1名	特養 1	

### Ⅲ. 社会福祉法人スキーム福祉の会評議員会・理事会開催状況

開催日	出席者	主な議決事項
H28. 05. 27	評議員 13名 理事 6名 監事 2名	平成 27 年度事業報告について 平成 27 年度収入支出決算について 平成 28 年度補正予算について のんびり笑家運営規程の変更について
H28. 9. 23	評議員 13名 理事 7名 監事 1名	パート就業規則の一部変更について ストレスチェック実施規程について のんびり笑家の閉鎖及び閉鎖後の土地、建物の売却について（案）
H28. 12. 22	評議員 14名 理事 7名 監事 2名	定款変更について 評議員選任・解任委員会運営細則の制定について 評議員選任・解任委員会の委員選任について 評議員選任候補者の推薦について 給与規程別表の一部変更について 独立行政法人福祉医療機構への加入について パート就業規則の一部変更について 平成 28 年度収入支出第二次補正予算（案）について
H29.2.24	評議員 12名 理事 5名 監事 2名	定款細則の制定について 理事会運営規程の制定について 評議員会運営規程の制定について 役員等及び評議員等の報酬等に関する規程の制定について 就業規則の一部変更について パート職員就業規則の一部変更について 給与規程別表の一部変更について 育児・介護休業等に関する規則の一部変更について ケアハウス居室の改修について

H29.3.29	評議員 12名 理事 6名 監事 2名	平成28年度収入支出補正予算(案)について 平成29年度事業計画(案)について 中間管理職育成研修の外部講師委託契約について ケアハウスの改修に伴う工事契約について 平成29年度収入支出予算(案)について 岡部貞美を理事に選任する件について 竹下昌彦を理事に選任する件について
----------	---------------------------	--

#### IV. 事業所別報告

##### 1. 管理・運営部門

###### 1. 防災教育及び訓練

実施日	訓練内容	参加者
H28.11.30	土砂災害想定避難訓練 避難誘導、伝達訓練	職員 38名 利用者
H28.12.14	昼間想定 通報、避難誘導、伝達訓練 防災監視盤・火災報知機の実施訓練	職員 48名 利用者
H29.3.15	夜間想定 通報、避難誘導、伝達訓練、消火器による消火訓練	職員 18名 利用者

###### 2. 職員研修

###### ①施設内研修

研修月	研修名	出席者	講師等
4月15日	就業規則について	51名 68%	竹下昌彦施設長代理
5月20日	薬の知識・服薬管理 食中毒予防の理解	31名 51%	川上夫己子看護主任 堺智恵子管理栄養士
6月17日	防災研修	50名 69%	小倉重倫事務課長
7月15日	K Y T (危険予知訓練)	46名 66%	上田伊津子特養部長
8月19日	接遇研修 救命処置研修	42名 58%	竹下昌彦施設長代理
9月16日	研究発表 1.穏やかに楽しみのある生活を目指して 2.ショートステイ中にも排便を 3.快適な入浴を目指して 4.自立支援とQOLの維持・向上	63名 88%	特養(西) 高島・服部 ショートステイ 吉村・森脇 デイサービス 小田・田村 特養ユニット 矢谷・高森

	5.今後ののんびり笑家に必要なもの 6.想いを受け止める支援		のんびり笑家 浅沼 特養（東） 立石・吉原
10月	看取り研修 感染症対策研修	82名 87%	各ユニット職員
11月18日	認知症サポーター養成講座	46名 66%	檜村明子 地域包括看護師
12月15日	口腔ケア研修	42名 54%	吉備路歯科医院 時田Dr. 石飛歯科衛生士
1月20日	摂食嚥下について 褥瘡患者さんのための栄養ケア	42名 58%	株式会社クリニコ 室田愛梨氏
2月17日	ホスピタリティー最前線（接遇）	53名 70%	北摂演出研究所 森下信雄氏
3月17日	高齢者虐待と身体拘束について	46名 62%	樋口武史生活相談員

※施設内職員研修も定着し、平均出席率は 66.4%となっている。

## ②施設外研修

全国・岡山県老施協・岡山県社協や各種団体が開催する各種研修会へ年間 59 回、延べ参加人数 95 名が参加いたしました。特に平成 28 年度は、労務関係、リスクマネジメント関係、認知症関係等の研修に積極的に参加してまいりました。

## 2. 特別養護老人ホーム

平成 28 年度目標に対する評価・報告

28 年度の目標として「サービスの質の向上」「人材の育成」「リスクマネジメント」の 3 項目を掲げ質の高いサービスの提供を目指してきた。

また今年度は多職種を交えての介護力向上勉強会を隔月に開催し専門性の向上に努めた。

### 【生活相談・ケアマネ】

1.ご利用者、ご家族との信頼関係を構築し、相談のしやすい環境整備に努める。

家族懇談会を開催。ご家族から意見を出していただきやすいような雰囲気づくりに努め、様々なご意見、ご要望をお聞きすることが出来た。また、相談のあった内容に応じて、看護・介護・協力医療機関等より情報収集し、確実な回答を行えるようにした。

2.介護、看護、協力医療機関だけでなく、ご家族とも情報共有し、ご利用者のニーズ把握をしっかりと行い、生活の質の向上を目指す。

ご利用者の身体的な変化、認知症の進行等を看護師を中心に逐次伝えていくことで、ご利用者の老化をご家族に受けとめていただくことが出来た。特に、看取り期の方については、最期の時を迎えるまでに起こりうる状態の変化や、当施設での看取りケアについて懇談会にて説明をさせていただき、ご家族にとっても悔いのないケアができるよう話し合い

の場を持つことが出来た。

3. フェースシート、生活記録を活用し多職種での情報共有を円滑に行えるよう努める。

生活記録についてはユニット間で食事摂取量等の記載について統一出来ていない部分があった為、リーダー会議にて意見調整、統一を図ることが出来た。それにより、ご利用者の変化を直接関わる介護士以外の職種が読んでも気づけるような記録になった。

#### 【看護】

1. 言葉づかい・気持ちのいい挨拶を実践し、ご家族・ご利用者・職員間での信頼関係を維持する。

ご家族を始め関係者に対して実践をした。その場面に合った言葉づかい、挨拶は出来た。信頼関係の維持については新たに入居されたご家族と挨拶・会話をすることで少しずつ信頼が得られるように今も取り組んでいる。

2. 技術だけでなく看護に必要な知識を習得するために積極的に研修会に参加する。

認知症の研修会には個人的に参加は行っているが、施設と云う立場上、研修会参加の場が少なく自主的にネットや書籍で参加可能な研修を各自で探し参加している。

3. 「感染症」の発生を少なくし、又発生時、施設内での蔓延を予防する事が出来るよう知識・対応策について実践研修を行う。

昨年度はインフルエンザがショートステイ・従来型特養で発生した。ショートステイは感染者に退所して頂き、それ以上の発生はなかった。従来特養も3名の感染者が発生したが、隔離する事で同じユニット内での2次感染は防止することができ、今まで行った感染症に対する研修が功を奏した。職員の感染に対する研修は各ユニット会議の場で各ユニットが考えた感染症についての研修内容をサポート・実践する形で実施した。

#### 【介護】

1. 個々の尿間隔に合わせた介助を実践し、トイレでの排泄を促す。

お一人おひとりの排泄リズムを把握し個々の尿間隔に合わせたトイレ誘導を実施し、日中はトイレでの排泄を促してきたが、夜間のおしめ使用はなかなか減らすことができなかった。

今年度2月より布おしめから紙おしめへの移行にともない(株)ユニチャームによる排泄ケアの勉強会を7回開催した。また、ケアアドバイザーの方による実践的な指導を受けることにより職員の意識が変わり始め、おしめからリハビリパンツへの移行が進みつつある。

2. 楽しく、落ち着いて安全に食事ができるような雰囲気づくりをし、食事介助の質の向上を目指す。

今年度は「認知症がある方への食事介助」「摂食嚥下障害」等の研修に参加し、安全な食事介助の方法について実技を交えた勉強会で知識を深めた。また、食事時の席等に配慮することにより、雰囲気づくりも工夫した。

給食委員会を通じ、ご利用者の方の要望も伝え、食時内容の質向上も行った。

### 3. 根拠に基づく介護を実践する。

「決められたから」「いつもそうしているから」ではなく「科学的介護」を基盤に、「なぜそうするのか」という理由を持った介護、その理由を伝えることのできる職員の育成を目指した。そのための正しい知識、利用者の状態を個別に把握し、その状態に応じた援助を実行できるよう、その時に必要な勉強会をユニット毎に随時開催した。

## 【機能訓練】

### 1. 笑顔で気持ちの良い挨拶を実践する。

施設の職員のみでなく入居者様のご家族や業者の方にも、気持ちの良い挨拶を実践することが出来た。

### 2. 体操、制作活動等のレクリエーションを実施し生活にメリハリをつける。

集団体操や季節に合わせた制作活動を通じて職員や入居者様同士の交流を図る事ができた。しかし、高い頻度で継続的に実施する事が難しいことから生活にメリハリをつけることは困難であった。

### 3. 積極的に研修会に参加する。

職員の都合により参加できない研修もあったが、ほとんどの研修に参加する事ができた。

### 4. ご利用者、ご家族のニーズを尊重した機能訓練を実施する。

カンファレンスにて訓練計画を立案する際に入居者様・ご家族の要望を優先的に取り入れることで目標が明確になり、利用者様のニーズを尊重したりハビリを実施することが出来た。しかし、意思表示の少ない方やご家族の要望が無い入居者様に対して目標が曖昧になる事があった。

### 5. 健康状態の確認とリスク管理を徹底する。

入居者様の様子について、機能訓練をする前に生活記録に目を通す事と他職種に口頭で確認することで健康状態の管理を徹底することができた。

### 6. 個人の状態に合わせた生活環境の整備を実践する。

カンファレンスや会議にて他職種と情報共有を図りながら車椅子の調整や居室の環境整備を行う事が出来た。しかし、福祉用具の破損や車椅子の空気が不足している事など配慮が至らない点も多くみられた。



## 【栄養】

1. 自立支援介護の理念を考慮し、常食化を目指す。  
食事形態を常食へ移行するのは難しいが、ムース食からのソフト食・ひと口大食へと状態に合わせた移行は行え。その方の嚥下状態に合う食事提供はできた。
2. 食事の質の向上を図る。(多職種との意見交換)  
ムース食・ソフト食など見た目にも食欲が出る工夫はできた。献立のマンネリ化が見られるので改善は必要。
3. 利用者の状態、嗜好を考慮した季節感のある行事食の提供を行う。  
季節感のある行事食は献立に取り入れた。総社市ならではの地産地消をもう少し検討したい。
4. マンネリ化せず利用者参加型のイベント食の機会を増やす。  
毎月ご利用者参加型のイベントを計画し実施できた。

## 行事

開催月	行事名	実施内容
4月	お花見会	家族懇談会・市内ダンスクラブキッズエアによるダンス・食事会
8月	特養夏祭り	特養入居者に限定した祭りを開催。模擬店
9月	敬老会	式典(米寿3名)・記念撮影
10月	グリリバふれあい祭	地域の方を招いての模擬店・くじ引き抽選会・十二カ郷陽水による歌謡ショー、ピエロのトッポによる余興
12月	クリスマス会	食事会・大正琴てまり演奏

## 苦情状況

発生日	内容	対応
H28.5.1 (ショートステイ)	ショートステイ退所後、家人が貼ってある薬の確認をしたところ、貼用禁止の胸部に貼ってあった。気を付けて欲しい。	職員が貼用薬に禁止箇所があることを認識できていなかった。その場で謝罪を行い、貼用禁止箇所について家人と確認を行った。また、ノートへ説明書を貼り付け、禁止箇所については、図説も行った。
H28.5.23 (ショートステイ)	夜になると寂しくなり、誰かに相手をして欲しくなります。面倒とは思いますが、もう少し丁寧に対応して欲しい。	精神的にも波があり、持病の関係で不安が生じると強く振戦が起こったりする。長い利用の方のために、この情報を忘れかけている面があるため、対応や言葉遣いに気を付けるよう周知を行った。家人へも謝罪を行った。

<p>H28.6.21 (特養)</p>	<p>散髪サービスの後、横になった枕に切った後の髪の毛がたくさん落ちていた。サービス業者の方に髪の毛の始末をするよう伝えて欲しい。</p>	<p>洗髪までは望まれていない方のため、散髪後はドライヤー等を使いしっかりと髪の毛を落とすように依頼した。また、家族にもその旨を伝え、納得頂いた。</p>
<p>H28.7.1 (ショートステイ)</p>	<p>退所された後、歯ブラシが他の方の物と入れ替わっていた。 ①口腔ケア用具はどのように管理しているのか。 ②なぜ、歯ブラシだけが入れ替わったのか。</p>	<p>①口腔ケアの用具を置く場所が利用者の手が届く範囲であったため、手の届かない洗面台上部に置き場を作った。 ②職員は2人の口腔ケアを介助することがないため、歯ブラシが入れ替わっていることに気がつかなかった。 新しい歯ブラシを持参し、お詫びに伺った。</p>
<p>H28.7.26 (ショートステイ)</p>	<p>帰宅した際の服装が季節に合っていなかった。衣類の整頓がきちんと出来ていないのではないか。</p>	<p>失禁等が多い方で更衣の回数が多く、洗濯が間に合わなかった。退所時には今一度、身なりを確認し退所して頂く。衣類についても、タンス内の整理を行った。また、家族の方が来所された際、タンスとロッカー内を確認して頂き、以後気を付けることを伝え、納得して頂いた。</p>
<p>H28.8.10 (特養)</p>	<p>面会時、パットが汚れているのに気づき、交換をお願いしようと職員に声をかけたところ、パットだけを渡され、去って行った。以前から、その職員の対応が気になっており、伝えさせてもらった。</p>	<p>当該職員には、事実確認の上、声掛け等の指導をさせて頂くことを伝えた。</p>
<p>H28.8.29 (ショートステイ)</p>	<p>透析を受けた翌日に退所したが、止血のテープが貼られたままであった。はずして欲しい。</p>	<p>止血テープを外すことへの認識がなかったため、連絡ノートへ記入し、周知を行った。家族へは謝罪を行い、今後も気になることがある場合は、連絡を頂きたい旨を伝えた。</p>
<p>H28.9.5 (特養)</p>	<p>電気カミソリによる髭剃りについて、食事時やお茶の時は、不衛生なために絶対にやめて欲しい。</p>	<p>髭剃りは出来る限り居室で行い、やむを得ない場合は、洗面所で実施するよう徹底しますとの回答を掲示した。</p>
<p>H28.9.26 (特養)</p>	<p>長野病院受診後、入院が決まり、病棟に移動する前に施設の看護師が帰ってしまい、入院した利用者の状態、ADL、情報を聞くことが出来ずに困った。</p>	<p>以前にも情報提供せずに帰ってくるがあった。本人と面談を行い、状況を確認した。施設の看護師は、入院に付き添った時に病院の看護師から帰っても良いと言われるまでは、その場に残りますと伝えた。</p>

※参考資料

(1) 入居利用者の実態

①介護度及び保険者(29年3月31日現在)

要介護度		1	2	3	4	5	計
総社市	男	0	0	4	6	5	15
	女	0	2	9	22	15	48
	小計	0	2	13	28	20	63
岡山市	男	0	1	0	0	0	1
	女	0	0	1	0	2	3
	小計	0	1	1	0	2	4
倉敷市	男	0	0	1	1	1	3
	女	0	1	2	1	2	6
	小計	0	1	3	2	3	9
高梁市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	1	1	2
	小計	0	0	0	1	1	2
真庭市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	1	1
	小計	0	0	0	0	1	1
井原市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0
	小計	0	0	0	0	0	0
吉備中央町	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	1	0	0	0	1
	小計	0	1	0	0	0	1
計	男	0	1	5	7	6	19
	女	0	4	12	24	21	61
合計		0	5	17	31	27	80

②年齢構成 (最高年齢: 106歳、最少年齢: 60歳、平均年齢: 87.9歳)

	~64	65~ 69	70~ 74	75~ 79	80~ 84	85~ 89	90~ 94	95~ 99	100 ~	計
男性	0	1	2	6	3	5	2	0	0	19
女性	1	0	0	4	7	18	18	9	4	61
合計	1	1	2	10	10	23	20	9	4	80

③年間の入退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	3	0	1	1	2	4	3	4	7	0	0	5
退所	3	0	1	1	1	4	4	3	7	1	0	2

④退所理由

長期入院	他施設入所	在宅復帰	死去	(死去の内、施設内での看取り)
11名	1名	0名	18名	(6名)

(2) 稼働状況 (稼働率：%)

従来型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延べ利用者数	1433	1480	1436	1498	1499	1388	1400	1392	1422	1456	1321	1460	1432
ベッド稼働率	95.5 (97.6)	95.5 (92.8)	95.7 (89.6)	96.6 (86.5)	96.7 (95.5)	92.5 (93.6)	90.3 (96.5)	92.8 (98.9)	91.7 (98.0)	93.9 (94.8)	94.4 (94.9)	94.2 (97.1)	94.2 (94.6)

( ) 内は平成 27 年度

ユニット型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延べ利用者数	852	909	893	927	898	859	901	837	879	922	839	895	884
ベッド稼働率	94.7 (97.0)	97.7 (97.7)	99.2 (99.8)	99.7 (100)	96.6 (97.7)	95.4 (92.9)	96.9 (94.8)	93.0 (97.1)	94.5 (94.1)	99.1 (97.0)	99.9 (97.5)	96.2 (97.5)	96.9 (96.8)

( ) 内は平成 27 年度

(3) ショートステイ稼働状況 (稼働率：%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延べ利用者数	526	511	513	532	525	450	453	486	515	425	487	504	494
ベッド稼働率	87.7 (86.5)	82.4 (88.2)	85.5 (87.2)	85.8 (92.6)	84.7 (86.3)	75.0 (86.2)	73.1 (83.5)	81.0 (82.7)	83.1 (81.1)	68.5 (86.8)	87.0 (79.5)	81.3 (78.9)	81.2 (85.0)

( ) 内は平成 27 年度

(4) 待機者の状況

保険者	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
総社市	4	23	42	33	33	135
倉敷市	0	18	5	9	7	39
岡山市	0	2	3	0	0	5
高梁市	0	1	0	0	0	1
新見市	0	0	0	0	0	0
井原市	0	0	0	0	0	0
真庭市	0	0	0	1	1	2
矢掛町	0	0	0	1	0	1
浅口市	0	0	0	0	0	0
津山市	0	0	0	0	0	0
吉備中央町	0	1	0	0	0	1
その他	1	1	2	0	1	5
合計	5	46	52	44	42	189

月	行事食	月	行事食
4月	お花見弁当 あんぱん作り	10月	グリリバ祭り 天ぷら実演 (のん) おでんバイキング (デイ)
5月	綿菓子作り	11月	秋の行楽弁当 そば打ち実演
6月	ピザ作り おにぎりバイキング (デイ)	12月	クリスマス会 もちつき
7月	そうめん流し (特養) フルーツパフェ作り (デイ のんびり)	1月	握り寿司
8月	かき氷・焼きそば ミニ夏祭り (デイ特養)	2月	デザートバイキング (デイ) 握り寿司
9月	デザートバイキング (特養) 夏祭り (のんびり)	3月	鉄板焼き (肉) 握り寿司

### 3、G&Rデイサービスセンター

稼働率の向上を目指し、居宅介護支援事業所へ毎月訪問しご利用者の情報提供を行った。また、2ヶ月に1回のペースでデイサービス独自の新聞を発行した。併せて、時間延長利用や時間短縮利用、不定期利用等のケースに対しての受け入れも積極的に行った。さらには、今後、中重度者への対応が求められている事もあり、「利用者一人ひとりの特性を知り、その方に合ったサービスを『根拠』を持ち提供する」事に今まで以上に力を入れ、取り組んできた。その結果、度重なる入院者が出て一時期稼働率 70%台まで落ち込むも、平成 28 年度平均稼働率 81.2%と、目標値を上回る事ができた。

## 1. 自立支援に向けたケアの実践

ご利用者の行動はご本人にとって何か意味のある行動であり、ご利用者の行動を「見守る」そして、危険が伴わない限りご利用者の行動を妨げない事を職員間で徹底した。また、ご利用者の生活のベースは自宅である事を念頭におき、「危ないから職員が手を出す」のではなく、「その行動を行えるようにする為には」の視点を持つ事をデイ会議等で話あった。

## 2. 認知症利用者に対するケア

利用者へ提供するサービスに関して、「根拠」を常に提示する事で、個別的なサービス提供の実施に努めた。また、認知症による残存機能の低下が見られるが、「出来ない人」として捉えるのではなく、その方の出来る事や得意な事、自信を持ち行える「可能性」を見出すことを職員間で徹底した。

## 3. 利用者情報の共有と望まれるサービス実践

ご家族やケアマネジャーから得た、ご利用者に関する情報を反省会や日課帳を通し、職員間で共有している。その際、気付きや検討事項があった際には職員間で協議し、かつ、「なぜそれをするのか」の根拠を持ち介護を行う事に努めた。

## 4. 経営の安定に向けた取り組み

毎月居宅介護支援事業所へ訪問し、情報提供及び関係の構築に努めた。また、要支援・要介護共に、可能な限り新規の引き合いを受け、かつ、ご家族の要望に対応する事で、今年度の平均稼働率は81.2%となり目標値を上回る事が出来た。

### 行事

開催月	行事名	実施内容
4月	あんぱん作り	あんぱんを作り食べる
5月	春の花々を思いのままに・・・。 フラワーアレンジメント	自分で選択した器と花でフラワーアレンジメント
6月	そうめん流しで梅雨を吹き飛ばせ！！	そうめん流し
7月	フルーツポンチ作り	フルーツポンチを作り食べる
8月	デイ夏祭り	中国短期大学による和太鼓演奏・屋台での飲食
9月	お月見の会	和菓子作り
10月	秋の神楽鑑賞会	高梁城南高校による備中神楽鑑賞
11月	そば打ち	そば打ち見学及び体験をしその後食べる
12月	クリスマス会	ボランティアによるオペラ鑑賞
1月	「グリバ DS」映画館へようこそ	「君の名は」の映画鑑賞
2月	バレンタインキス	デザートバイキング・職員から利用者へお菓子を贈る・回想法
3月	寿司食いねえ！in グリリバ	目の前で握り寿司をにぎってもらい食べる

## 苦情状況

発生日	内容	対応
H28.4.26 H28.4.27	散髪料金と申込用紙を入れておいたが、そのまま返却されてきた。実際に散髪は行ったのか。 納得出来ない事が多い。グリーンさんとは肌が合わないのだろう。 謝罪の電話をもらったが、言い訳にしか聞こえない等。	謝罪を含め、報告しようとしたことが更に遅れ、不快な思いを与えてしまったことが原因である。直接お会いし、謝罪した。
H28.5.26	迎えが 8 時 45 分となっているが、8 時 30 分に来たり、9 時前に来たりで待つ事が出来ない。また、どの職員も優しく対応してくれるが、1 人だけ著しく不愉快な方がいらっしゃる。	送迎時間に関しては、送迎表に載せてある時間を著しく前後しないことを意識するように職員に伝えた。また、ご利用者、ご家族に関する言動に関して、職員間でどのような姿勢であるべきかを徹底した。特定職員への案件であるので直接、注意した。
H28.12.22	自宅付近に送迎車が停まるため、申出者の方の車が出せず、出勤時間と重なり非常に困る。	家の横に停車せず、枝道に侵入して車を停車し送迎を行う。

## 4. のんびり笑家

平成 28 年度は地域密着型通所事業所としてスタートいたしましたが、稼働率はあまり向上することはなく、平成 28 年 3 月末をもって閉鎖することとなりました。最後の最後までご利用してくださったご利用者・ご家族の方に感謝を申し上げたいと思います。

### 1. 自立支援に向けたケアの実践

のんびり笑家の使命であるご利用者の主体性を尊重し、「見る・聴く・待つ・しすぎない」の援助を実施し、ご利用者の残存機能を活かした援助の徹底を図ってきたが、年度前半には職員の病気や怪我により相次ぐ長期休養で職員が不足したことで、手を出しすぎたり、時間に追われてご利用者の動作を待てない時期があった。後半には閉鎖に伴うご利用者の減少もあり、個人を尊重した援助ができた。

機能訓練器具を活用した援助は、個人のペースや状態に合わせて声掛けし、お誘いをしてほぼ毎日行うことができた。

尿意・便意を活かした排泄援助の実施については、前半は職員都合で動くような場面が見られることがあった。後半はご利用者それぞれ独自のサインを見つけ、それらを職員全員が把握することでスムーズな排泄介助を行うことができた。

## 2. 認知症利用者に対するケア

少人数を活かし個人の主体性を活かしたアクティビティーの提供を実施。27年度から開始している「見ること・話すこと・聴くこと」を同時に行う音読の継続や、歌本を見ながら歌を歌うなど新たなアクティビティーも実施し、認知症改善に取り組んだ。

## 3. 口腔ケアの向上

昼食前には口腔ケア体操を実施し、食事後はご利用者全員に対して、自歯の歯磨きや義歯の手入れ、舌苔の除去を行い、誤嚥性肺炎の予防に努めた。また自宅やのんびり笑家以外でも引き続き行っていただけるようにご利用者と一緒に取り組むことに留意した。

### 行事

開催月	行事名	実施内容
4月	お花見	桜の鑑賞
5月	園児との交流会	井尻野幼稚園 園児との交流
6月	あざみの会	舞踊・歌などの鑑賞
7月	アイスが食べたい	アイスパフェ作り
8月	ロブスターコンサート	ボランティアによるバンド演奏・屋台
9月	のんびり笑家祭り	射的・ヨーヨー釣り・屋台
10月	身近な物でのお菓子作り	おからのクッキー作り
11月	総社の紅葉の名所へGO	豪溪へドライブ
12月	のんびり笑家忘年会	昼食：にぎり寿司、ビンゴ大会
1月	昔ながらの手作りぜんざい	小豆を煮て白玉粉でぜんざい作り
2月	すごく簡単桜餅づくり	ホットプレートを使った桜餅づくり
3月	卒園・感謝のメッセージカード作り	井尻野幼稚園の卒園式に贈る

### 苦情状況

発生日	内容	対応
なし	なし	なし

## 5. 居宅介護支援事業所

今年度は、積極的・自主的に研修参加や情報収集を行い、知識の向上に取り組むことができた1年であった。受け入れ件数をほぼ上限一杯持って報酬を維持していたが年度末近くになって減少。報酬減となってしまった。

### 1. 介護支援専門員の質の向上

日々の業務に追われ、時間や場所を設けての部署内での定期ミーティングやケース検討会の実施は行うことが出来なかったが、少しの時間やタイミングを見ての社会資源の情報共有や、個々のケースの相談は行うことが出来た。



1名が法定研修（専門Ⅱ）を受講終了。介護支援専門員協会主催の研修、吉備医師会合同研修、その他民間業者実施の研修等、複数の研修に積極的に参加。岡山県介護支援専門員協会の研修委員会役員を受け、研修開催側スタッフとして講義を実施するなど、知識と経験値の向上に取り組むことができた。

## 2. 安定した収入維持

一人の介護支援専門員の持ち件数を、減算対象件数近く持っていたが、本年度実施された実地指導で、一人あたりの持ち件数に対して助言を頂いたことや、長期入院や入所で利用終了者が続いたことから件数減となった。今後は既定目安の一人あたり 35 件に留意しながら緊急時でも対応できる件数維持に努めたい。

## 3. 他職種による連携推進

在宅サービス事業者と関わることが多い職種である為、担当者会議や日々の連絡で情報共有・情報交換を無理なく行うことができ、関係構築を推進することが出来た。市が主催する認知症施策説明会へ参加するなど、「地域で支える」ことに対する情報収集に取り組むことが出来た。また、平成 29 年 4 月から始まる総合支援事業について、地域包括支援センターに説明会を設けてもらい、知識向上に努めた。

### 苦情状況

発生日	内容	対応
なし	なし	なし

## 6. ケアハウス

ケアハウスでは以前より入居者の重度化が進み、在宅サービスを利用することありきでなければ、自立生活を送ることが出来ない方が増加した。ところが、今年度からの総合支援事業開始の追い風を受けたり、重度化の方の退居が重なったこともあり、本来のケアハウスを取り戻しつつある。介護量が減少した分、自立した生活を継続していただくための支援、安心した毎日を過ごしていただくための支援、楽しみのある生活を支援することに力を注ぐことができた。

### 1. 自立支援に向けて

- ・百歳体操の定期実施でADLの低下防止と心身機能の維持向上に努めた。
- ・職員が介入しない場面での自己解決の為、環境の整備、在宅サービスの調整を適時行った。職員としては常に傾聴を心掛け、入居者同志のトラブルを避けるよう努めた。

### 2. 認知症対策として

- ・毎週1回レクリエーションを定期的実施できた。実際この一年で退居者以外は介護度が上がった方はおられず、多少の効果はあったと判断したい。
- ・入居者様個々の生活歴をふまえてのケア（貼り絵、おり紙、俳句、大正琴、畑仕事、等）に努めてきたが、職員が付き添わないとうまくいかないことが多く課題が残る。
- ・認知症に限らず精神疾患の方についての知識や技術の習得も課題だったが、ドクターの指示や

助言に従うことに精一杯で研修などには参加できなかった。

### 3. 感染症対策として

- ・咳き込めば自らマスクの着用。外出先から戻れば手洗い、うがいを入居者皆さんで声掛けあつて励行するなど、予防に努めることができた。その結果、感染者なく過ごすことができた。

### 4. 生きがい対策として

- ・外出、買い物、外食等、出かける機会を設けたり、季節を感じるができる行事の実施や畑作業を取り入れることによって植物の毎日の成長を楽しみ過ごすことができた。
- ・「食」に関してはリクエストの多かった刺身を今年度初めて1月より月に1回のペースでお出しした。とても好評のため来年度も引き続き実施したい。
- ・皆さんで仕上げた作品を廊下の壁にや食堂に展示することによりやりがいや達成感を味わってもらうことができた。

#### ①要介護度及び出身地

	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
総社市	3	3	1	4	1	1	0	0	13
高梁市	0	0	1	1	0	0	0	0	2

#### ②年齢構成（最高年齢：96歳、最少年齢：76歳、平均年齢：85.8歳）

性別	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	合計
男性	0	0	0	0	1	1	1	3
女性	0	0	0	2	4	3	3	12

#### ③在籍年数（平均3年1か月）

年数	1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上～ 8年未満	8年以上～ 10年未満	10年以上
人数	2	6	3	2	2	0

#### ④入退居状況

退居者数2名（長期入院：0名、介護保険施設入所：2名）

入居者数2名

#### (2) 懇談会開催状況

開催日	懇談内容	出席者数	出席職員
6月15日	食中毒・熱中症予防について	13	4
9月16日	転倒防止について	11	4
12月13日	冬の感染症について	6	5
3月21日	自分らしく生きるとは	9	5

### (3) 行事活動実施状況

実施月	実施内容
4月	おはぎ作り、お花見、農マル園芸散策
5月	えんどうの収穫・筋取り、びわの袋かけ、焼き肉（バーベキュー）
6月	芋の苗植え、フルーツ白玉作り、外食（前田料理店）
7月	花の苗植え、かき氷
8月	そうめん流し、外食（かもがた茶屋）
9月	おはぎ作り、敬老会
10月	清音ふれあい福祉まつり、グリリバふれあい祭り
11月	芋ほり、紅葉見学&外食（福よし）、花の苗植え
12月	忘年会（鍋パーティー）、クリスマス会、お餅つき
1月	初詣（最上稲荷）&外食（庄屋和久）
2月	手巻き寿司、たこ焼きパーティー
3月	外食（きびきび亭）、パンケーキ作り

※レクリエーション：週1回、百歳体操：週1回、買い物：月2～3回、特養の行事に参加：随時

#### 苦情状況

発生月日	内容	対応
なし	なし	なし

## 7. 地域包括支援センター

常盤清音地区は、新興住宅による人口の増加に伴い高齢者人口も増えてきている。介護保険の制度改正により介護予防にますます重点を置き、地域で見守る体制作りが必要となりました。そのため小地域ケア会議を元に常盤東地区・常盤西地区・清音地区で、店が多い地域と少ない地域等、特性が違うそれぞれの住み慣れた地域で自立した生活を送ることができるように、その都度買い物に困っている方には移動販売の「とくし丸」の説明を行い、今後も検討していく必要があると認識しています。また退院時の不安軽減として自宅訪問し、日常生活を送る上での困り事の相談や介護保険サービスの説明を行い、権利擁護の必要時には社会福祉協議会に繋がりました。

### 1. 個別ケア会議の開催

平成29年4月から「介護予防・日常生活支援総合事業」の開始となるにあたり要支援1・2の方の更新時に毎月事例をあげてその方にふさわしいサービスを話し合いました。市役所・利用事業所・地域包括支援センターが集まりその方の状況や状態を話し合い、どのようなサービスが良いかの議論を行い、総合支援事業で日常生活が送れる方・現行相当のサービスが必要な方の話しを行い、来年に向けてのアセスメントの仕方も学びました。

### 2. 認知症の支援

総社市中央部南地域包括支援センター圏域で認知症カフェを昨年度は毎月1か所で開催し

ていましたが、常盤地区1か所では自転車でも行くことが出来ないとの声があり、平成28年5月からは介護予防拠点施設の3か所で毎月順番に開催しました。毎回7～9名の方が来られ、困り事の相談や新しい制度の説明を行い、必要に応じて改めて自宅を訪問しています。

### 3. 地域包括ケアシステム活用

常盤東・常盤西小地域ケア会議、清音小地域ケア会議で完成したシステム図を活用するために、常盤西地区では6月に常盤西地区内の全店におかしいと思った人の相談先として地域包括支援センターの連絡先が入った「見守りチラシ」を民生委員・児童委員が配布しました。効果として動物病院から頻繁に薬をもらいに来る人がいるとの連絡があり、担当地域の地域包括支援センターに繋がりました。

高齢者見守り台帳等の情報を共有するために一人暮らし高齢者・高齢者世帯を訪問し、早めに相談していただけるように努めています。一人暮らし高齢者から去年チラシをもらって、足が動きにくくなったとの相談連絡が入り、早めの相談により介護保険の利用とともに状態の悪化を防ぐことが出来ています。

#### 苦情状況

発生月日	内容	対応
なし	なし	なし